

令和5年度 東京都献血推進協議会

血液製剤適正使用部会 議事要旨

- **開催日時**：令和5年10月17日（火曜日）17時00分から18時00分まで
- **開催方式**：WEB会議
- **出席者**：小竹部会長、田中委員、奥山委員、藤田委員、横山委員、名倉委員、牧野委員、渡辺委員、大橋オブザーバー事務局（東京都保健医療局保健政策部疾病対策課）
- **議事**：
 - (1) 血液製剤適正使用推進事業について
 - ① 東京都輸血療法研究会について
 - ② 血液製剤適正使用アドバイス事業について
 - (2) 輸血状況調査について
 - ① 令和4年輸血状況調査の結果（報告）
 - ② 令和5年輸血状況調査の実施
 - (3) その他
 - ・「小規模医療機関における輸血マニュアル」の改定について

議事内容：議題に沿って以下のような内容の協議や意見交換が行われた。

- (1) 血液製剤適正使用推進事業について
 - ① 東京都輸血療法研究会について
令和5年度の開催方法やプログラム内容等について、資料4に沿って事務局から報告した。
 - ② 血液製剤適正使用アドバイス事業について
令和5年度の実施方法や実施状況等について、資料4に沿って事務局から報告した。
- (2) 輸血状況調査について
 - ① 令和4年輸血状況調査の結果（報告）
令和4年輸血状況調査の集計結果及び評価指標について、資料5から8に沿って事務局から報告した。
また、グロブリン製剤について、海外由来のみの皮下注用の使用量が増加してきたことにより、国内献血由来使用率が低下してきた現状を踏まえ、新たに作成した資料8の静注用に限らない「グロブリン製剤の使用量及び国内献血由来使用率」の推移のグラフについて、各委員に意見を募った。

【上記に係る意見等】

● 資料8について

・（製剤名での調査を開始した平成29年以降を比べたとき、）使用されている製剤の大部分が静注用であった平成29年は国内献血由来使用率が99.4%であったが、海外由来のみの皮下注用の使用拡大に伴う使用量の増加により、国内献血由来使用率が下がってきているということが分かりやすいグラフとなっている。当グラフも、ホームページに公表した方が良いのではないかと。

● 血液製剤の廃棄について

・血漿製剤の廃棄が増加しているが、有効期限による廃棄が増加したのか、破損による廃棄が増加したのか。

・血液製剤の添付文書の電子化以降、新鮮凍結血漿の破損が多い印象。バックとセグメントの接触部分が破損している事例が見受けられるので、バックとセグメント間にあった添付文書が無くなったことによる影響が出ているのではないかと。

→（事務局より）

①理由としては、有効期限による廃棄が増加している傾向にある。

②令和3年8月より添付文書を電子化。日本赤十字社においては、平成4年9月以降、添付文書が同梱されていない新鮮凍結血漿を出荷している。（なお、令和4年度調査には、その影響がまだ十分に反映されておらず。）

● 自己血輸血について

・自己血輸血の使用量が減少しているのは、内視鏡やロボット手術の導入など手術の進歩によって、手術時の出血が少なくなった影響が表れているのではないかと。また、希釈式・回収式自己血輸血を積極的に実施している現状も影響しているのではないかとと思われる。

⇒上記意見を踏まえ、グロブリン製剤のグラフについて皮下注用等を含めたグラフを追加することとした。

② 令和5年輸血状況調査の実施

令和5年輸血状況調査の案について、資料9、10及び11に沿って事務局から説明した。

⇒特に異議なく、全委員より事務局案について了承を得た。

(3) その他

・「小規模医療機関における輸血マニュアル」の改訂について

平成27年9月に「小規模医療機関における輸血マニュアル」を発行した後、微修

正は行ったが、「科学的根拠に基づいた血小板製剤の使用ガイドライン」が反映されていないことや、近年、在宅での輸血が増えてきている現状を踏まえ、マニュアルの改定を実施することについて、各委員に意見を募った。

【上記に係る意見等】

- 作業メンバーで改定案を作成し、その他部会委員が確認する形でマニュアル改定を進めたいと思う。
- 本マニュアルは、不規則抗体などについて記載されており、日本輸血・細胞治療学会のガイドラインとは違った良さがあるマニュアルとなっている。本マニュアルを都内で徹底できれば良いと思う。

【問合せ先】

東京都保健医療局保健政策部疾病対策課

電話番号：03-5320-4506